

台本オマケトラック:たまには違う味わい方を

「どうかしましたか？ 黙り込んでしまって」

「……ああ、そうですね。実は、僕も初めてなんです」

「ラブホに入るの」

「わかりますよ。キョロキョロしてしまうんでしょう？ 普段行かない場所だから」

「荷物、ソファの上に置きますよ？」

「あはは、今の貴女、小動物みたいです。動きがね」

「……可愛い」

(ベッドに押し倒す音。ギシギシ、ドスンという音を、ハッキリとした感じで)

「……何度話しても、何度触っても、何度キスしても」

「駄目なんです。貴女が目の前にいると、自分を抑えられなくなってしまう」

「……不思議ですよ。付き合っている筈なのに」

「貴女のことを手放したくない」

「今この瞬間を、切り取ってしまいたい」

「……誰にも見せない表情で、埋め尽くしてしまいたい」

「ちゅっ……」

「貴女のその唇から、他の男の名前が出るだけで、胸が苦しくなる」

「……だからこうして、【貴女は僕のモノ】だと、その身体と心に刻みこむんです」

「僕から、離れられなくなってしまうえば良い」

「愛していますよ……」

(ベッドの軋む音)

(布の擦れる音)

「んん……ちゅっ……」

「……急ぎ過ぎましたか？」

「ちゅっ……」

「ゴメンね。待ちきれなくて」

「すぐにでも、したい」

(服を脱がせる音)

「……可愛い乳首」

「ホラ、指でつまんだら……」

「すぐに硬くなるもんね」

「コリコリしようね」

「……気持ち良いんだ」

「もっと、しょうか」

「……ちゅっ……ちゅっ……」

「ぴちゃ……ぴちゃ……ちゅう……」

「ふふ……美味しい……」

「下は……どうかな……？」

(ピチャピチャ音)

「……うん……もう濡れてる。……こんなに」

「……あ」

「少し、良い？」

(ベッドの軋む音)

(ガサゴソという物を探す音)

(ベッドの軋む音)

「……目、閉じて？」

(布の擦れる音)

「目、開けて良いよ」

「あはは」

「……見えないでしょ？」

「アイマスク」

「その方が、ずっと感じるから」

(モーター音)

「イかせてあげる」

「……オモチャ、使うって約束しましたもんね」

「約束は、守りますよ」

「……貴女の反応も見たくて」

「どうですか？ ローターは」

「振動がクリに響いて、気持ち良いでしょう？」

「……ふふっ」

「シーツ、掴むほど気持ち良い？」

「はぁはぁ言ってる」

「堪らないね？」

「どうするのが良いの？」

「押し付ける…？」

「それとも、動かす？」

「もっと、強い方が良いかな？」

「……身をよじっても、逃れられないよ」

「ね？ だから、イっちゃいなよ」

「ああ、イっちゃったね」

(スイッチを切る)

「気持ち良かった？」

「……素直なのは、良いことだよ？」

「じゃあ、次のね」

「……え？ 一つじゃないよ？」

「こっちの方が、刺激が強いかな？」

「……凄いでしょ？ さっきより、強くて、当たる部分も広い」

「だから、ちょっと押し付けてしまえば……」

「強制的に、イっちゃうね？」

「もっと声、聞かせて……？」

「んっ……ちゅっ……ぴちゃぴちゃ……ちゅう……ん……」

「んん……ん……ちゅ……んう……」

「もっといじめたい……」

「好きだから……」

「貴女のこと……」

「可愛い……」

「愛してる……」

(ベッドの軋む音)

「んっ……ちゅっ……ちゅっ……」

「……ふふっ」

「もう、イっちゃったの？」

「中はきっと、トロトロだね」

「アイマスクは、外してあげる」

「僕の顔、見て？」

「耳まで真っ赤」

「可愛いなあ……」

「……入れようか……」

「……っ」

「うん……凄く濡れてる……」

「いったばかりだから、キツイね……」

「たまらない……」

「動くよ」

(グチュグチュ音)

(ベッドの軋む音)

「……よく見える」

「繋がっているところが」

「ヌルヌルして、ホラ」

「中がめくれる」

「……いやらしい」

「恥ずかしがる姿も、可愛いですよ？」

「そんな顔するから、もっと意地悪したくなるんだよ？」

「……もしかして、わざとかな？」

「首、振るの？」

「違わない気も、するんですけどね」

(ベッドの軋む音)

(シーツの擦れる音)

「ずっと、入れていたい」

「繋がっていると、幸せですから」

「……良かった。今日も、貴女と一緒に過ごすことが出来て」

「離れたくないんです」

「……貴女は僕のモノだ」

「今も、この先も、ずっと……」

「……ね？」

「ええ、ずっと、ですよ」

「……もう少し、味わわせてください」

「貴女の中を……」

「そうしたら……」

「中に……出しますからね……」

「……っ……ん……」

「はっ……」

「う……ん……」

「っ……」

「くっ……ふっ……」

「んん……」

「はぁ……っ……」

「う……ぁ……」

「はぁ……はぁ……」

「んっ……」

「……うう……っ……！」

「……はぁ……」

(布団に倒れこむ音)

「……愛していますよ？」

「……いいえ。僕の方が、より愛しています」

「ふう……意地っ張りですね」

「ちゅっ……んんっ……」

「言い張るなら、試してみましょうか」

「どれだけ僕が、貴女のことを愛しているか」

「……ああでも、その表情だと、確かに僕のことを愛してくれていますね」

「安心しきった顔。そして僕に、身体を預けてくれている」

「それに」

「僕が触ると……」

「ふふっ……。ホラ、そんなに切ない声を出して」

「目がとろんってしてる」

「まだ、足りない？」

「欲しいなら、ちゃんと言って？ ……何が欲しいか」

「ちゅっ……ちゅっ……」

「何度でも気持ち良くしますから、もっと僕を必要としてくださいね？」

「……勿論……」

「……セックスだけでなく、精神的にも」

「依存してしまうくらいに、愛してあげる」